

## 12月定例会

# ごみ減量化に向けて市議会も附帯決議

平成30年第4回定例会は11月29日から12月14日までの会期で開催されました。初日の本会議では、前回の定例会最終日に提案され経済建設常任委員会で継続審査となっていた、家庭系ごみの処理手数料を定めるための条例改正案と、指定収集袋作成のための補正予算案の審査結果が同委員会委員長から報告されました。なお、この条例改正案に対する附帯決議が議員提案され、いずれも賛成多数で原案可決されました。また、市長から新たに20件の議案が提案され、このうち12件が所管常任委員会に付託されました。ここでは、主な議案の各常任委員会の審査概要を報告します。提案された全ての案件の件名および審議結果は、12面に掲載しています。

### 一般廃棄物の減量化、資源化、適正処理等に関する条例の一部改正について

この条例改正は、ごみの減量化を効果的に進めるために、家庭系ごみの一部について有料の指定収集袋を導入し、あわせて戸別収集に取り組むために必要な改正を行うものであります。経済建設常任委員会では10月10日から11月26日までの間に計4回間、委員会を開いて審査を行いました。審査の概要は次のとおりです。

問 指定収集袋を1点当たり2円とする根拠を伺います。

答 この金額がごみの減量効果が高いという大学の調査結果があります。また、環境省の一般廃棄物処理有料化の手引きでは、市民の受容性、近隣自治体との手数料水準のバランスを考慮することとされています。これらを総合的に判断し料金を定めました。

問 指定収集袋の有料化だけではなくて、戸別収集も同時に実施する目的について伺います。

答 先行している自治体での実績もあり、戸別収集は有料化と併用することで、ごみの分別、減量効果を高める相乗効果が期待できることから、同時に実施したいものです。

問 指定収集袋は何枚程度作成するのか伺います。

答 1000万枚程度を予定して補正予算を計上しています。販売当初は多くの需要があると想定されますが、不足が生じないような袋の作成数を見込んでいます。

### 指定管理者の指定について

「えびな市民活動センター」「中央公園地下駐車場」「有料自転車等駐車場」「図書館及び門沢橋「ミニユーティセンター」」の各指定管理者の指定についての議案が提出されました。いずれの施設も指定の期間は、平成31年4月1日から5年間です。このうち「図書館及び門沢橋「ミニセン」」の指定管理者指定に関する審査内容を紹介します。

中央図書館と有馬図書館は、平成26年度から指定管理者

指定収集袋の材質にこだわる理由について伺います。国、県でプラスチック製品を削減していくという流れがある中で、海老名市としても環境に優しい素材を使用していきたいと考えています。

なお、この議案に対する附帯決議として、①戸別収集における各家庭の集積場所など個別の対応も含め、周知を徹底すること②家庭系ごみだけでなく、事業系ごみについても、減量化対策を強化すること③同時期に実施予定の消費税増税による負担増に対し、家庭系ごみ指定収集袋の無料配布などさまざまな手法を検討し、対策を講じることなどの12点に十分留意して実施することを求めました。

附帯決議とは、議案を議決する際に付け加えることができる市議会の意見、要望のことを行います。法律的な効果や拘束力はありませんが、政治的に尊重されるべきものとされています。

問 指定管理者の指定についての提案内容を伺います。

答 コミュニティカフェ、茶話会ができるスペースを設けて、誰でも来て語らいができる場を設けること、地域を巻き込んだお祭りの開催などの提案がされています。

意見 選定委員会の審査結果は、今後、よりよくしていくための基礎となる部分であり、これを財産として受け止め取り組んでもらいたい。また、指定管理料の妥当性については、行政として施設のあり方をしっかりと協議して進めてもらいたい。

制度による運営を行っています。有馬図書館と併設の門沢橋「ミニセン」は、管理運営委員会での運営を返上したいという地元自治会からの要望を踏まえ、指定管理者制度を導入します。指定管理者候補者は、えびな学びコンソーシアムで、門沢橋「ミニセン」は、有馬図書館と一体的に指定管理を行うこととなりました。文教社会常任委員会での審査概要是次のとおりです。

問 今回の指定管理者候補者に決めた理由を伺います。

答 選定委員会の結果を受けて、市として決定しました。

図書館部分は、過去5年間の実績と、さらに魅力あるサービスの提供が期待できること、共同事業体として相鉄企業が加わり、確実な施設の維持管理と地元との関係を十分に構築することができるなどが主な理由です。

問 選定委員会の中での具体的な質疑内容を伺います。

答 応募事業者に対して、図書館のコンセプト、館長の常駐、コンプライアンス、学校図書館の支援、閉館中の対応、コミセンスタッフなど多岐に及ぶ質疑がされています。

問 共同事業体の責任体制について伺います。

答 中央図書館はCCCを中心に、有馬図書館と門沢橋ミニセンはTRCと相鉄企業が中心となります。共同事業体としての代表はCCCであり、しっかりとガバナンスの整理がされていると考えています。

問 中央図書館と有馬図書館のすみ分けについて伺います。

答 各館の違いは、それぞれの独自性として整理していきます。有馬図書館は、既存のものを継続しながら、子育て的な支援策も盛り込んでいきたいと考えています。

問 ミニセン運営についての提案内容を伺います。

答 コミュニティカフェ、茶話会ができるスペースを設けて、誰でも来て語らいができる場を設けること、地域を巻き込んだお祭りの開催などの提案がされています。

答 選定委員会の審査結果は、今後、よりよくしていくための基礎となる部分であり、これを財産として受け止め取り組んでもらいたい。また、指定管理料の妥当性については、行政として施設のあり方をしっかりと協議して進めてもらいたい。